

江戸時代の旅行から文化を考えよう

千葉市立稲浜小学校 新田 裕二郎

- 1 実施学年及び教科・領域
小学校第6学年 社会科
- 2 学習のねらいと博物館の活用と関連について

(1) 小单元名

「町人の文化と新しい学問」

(2) ねらい

①学習指導要領との関連

本单元は、学習指導要領第6学年の目標及び内容(2)「我が国の歴史上の主な事象について、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。」ことのうち、ア「次のような知識及び技能を身に付けること。その際、我が国の歴史上の主な事象を手掛かりに、大まかな歴史を理解するとともに、関連する先人の業績、優れた文化遺産を理解すること。」の(ク)「歌舞伎や浮世絵、国学や蘭学を手掛かりに、町人の文化が栄え新しい学問がおこったことを理解すること。」を受けて扱うものである。

②単元の目標

我が国の歴史上の主な事象について、世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、地図や年表、その他の資料で調べ、江戸幕府の政策の意図や社会の様子を考え、表現することを通して、歌舞伎や浮世絵、国学や蘭学を手掛かりに、町人の文化が栄え新しい学問がおこったことを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を解決しようとする態度を養う。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などについて、文化財や地図、年表などの資料で調べ、歌舞伎や浮世絵、国学や蘭学を理解している。	① 世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに注目して、問いを見だし、この頃に栄えた町人の新しい学問を生み出した人物の業績を考え、適切に表現している。	① 歌舞伎や浮世絵、国学や蘭学について、予想や学習問題を立てたり、学習をふり返ったりして、主体的に学習問題を追及し、解決しようとしている。
② 調べたことを年表や文などにまとめ、町人の文化が栄え新しい学問がおこったことを理解している。		

(3) 博物館との関連

①活用方法 来館型

②活用資料 第3展示室

(4) 指導観

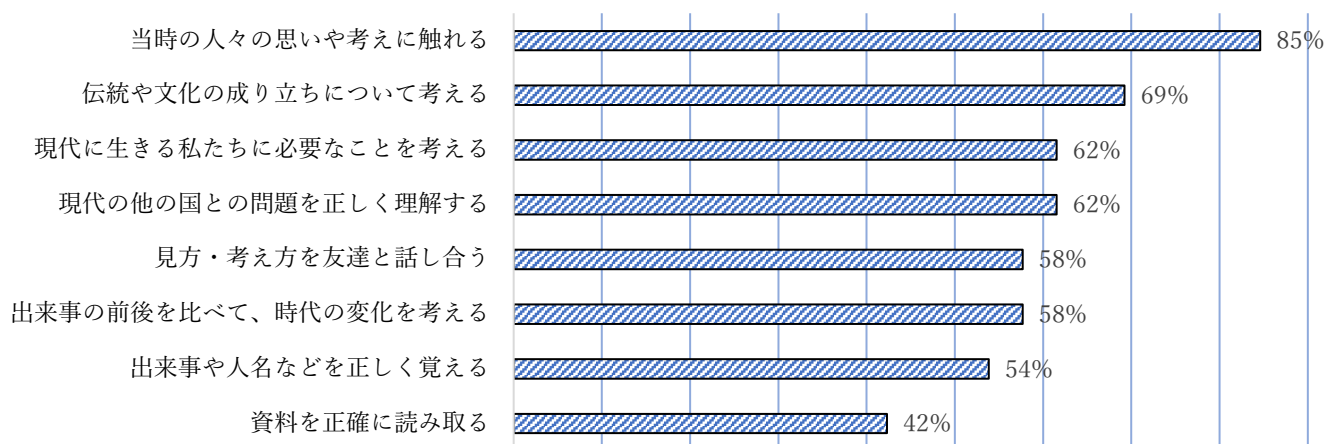
前单元までに児童は、参勤交代や鎖国、身分制など武士による政治の安定が図られていることを学習している。特に、身分制に関しては、為政者による一方的な支配ではなく、一定程度の双方向的なつながりをもっていることを学習し、人物や出来事中心の学習ではなく、時代の概要を捉えようとしてきた。

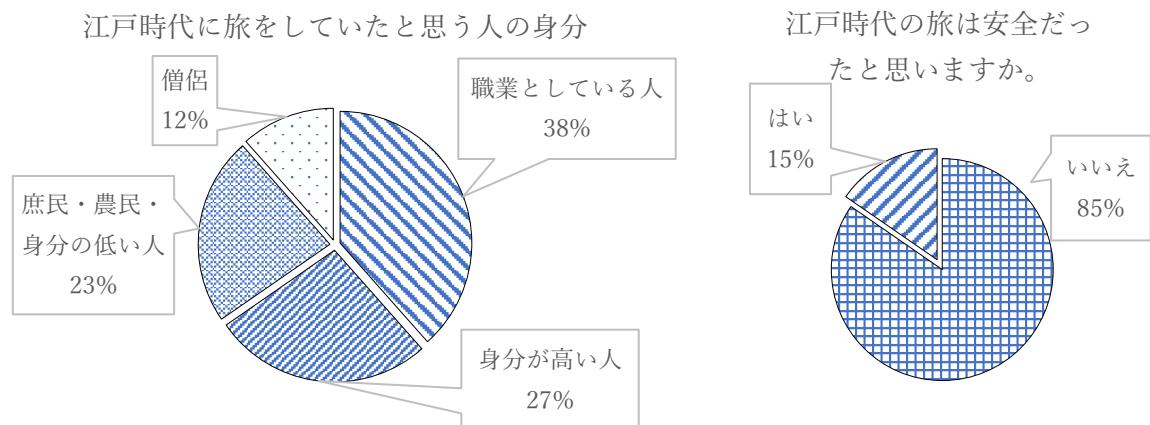
江戸時代は武士による政治の安定があっただけでなく、町人や農民など民衆による力が大きくなった時代である。特に、本小単元の目標とする町人の文化や新しい学問の隆盛は、三都だけのものではなく地方都市にも広がりを見ることができる。その要因のひとつが、民衆による旅である。江戸時代中期以降、お陰参りに代表されるように、民衆が広く旅に出るようになる。民衆は旅に出ることによって、都市の文化を吸収し、地域に還元されていった。また、地域には争いが少なくなったことで教育に時間が割かれ、識字率が向上し、文化が醸成されるようになる。これにより、地域でも学問が受容され、全国的な広がりを見せていく。

本学級の児童は、江戸時代について支配体制が強く閉鎖的な時代と捉えている傾向にある。そこで、本小単元では、民衆による旅や活版印刷技術の発展により知識の伝播があったことを理解し、町人や農民を中心に多様な文化・芸術が盛んになった時代であったと捉えることを目標とする。つかむの段階では、民衆が平和になり様々な文化を享受している様子が分かるようにする。両国橋の花火を楽しむ人の絵図を利用し、活発な様子を捉えられるようにする一方で、打ち壊しの様子と対比させ時代の変化に驚きをもち、学習に取り組めるようにする。調べるの段階では、旅を中心に学習を進め、旅が知識の交流を生み、文化が発展していく様子を学習していく。また、それに呼応するように、地方では寺子屋のような教育施設が普及したり、印刷業や貸本屋に見られるような学問が普及したりすることについて学習する。

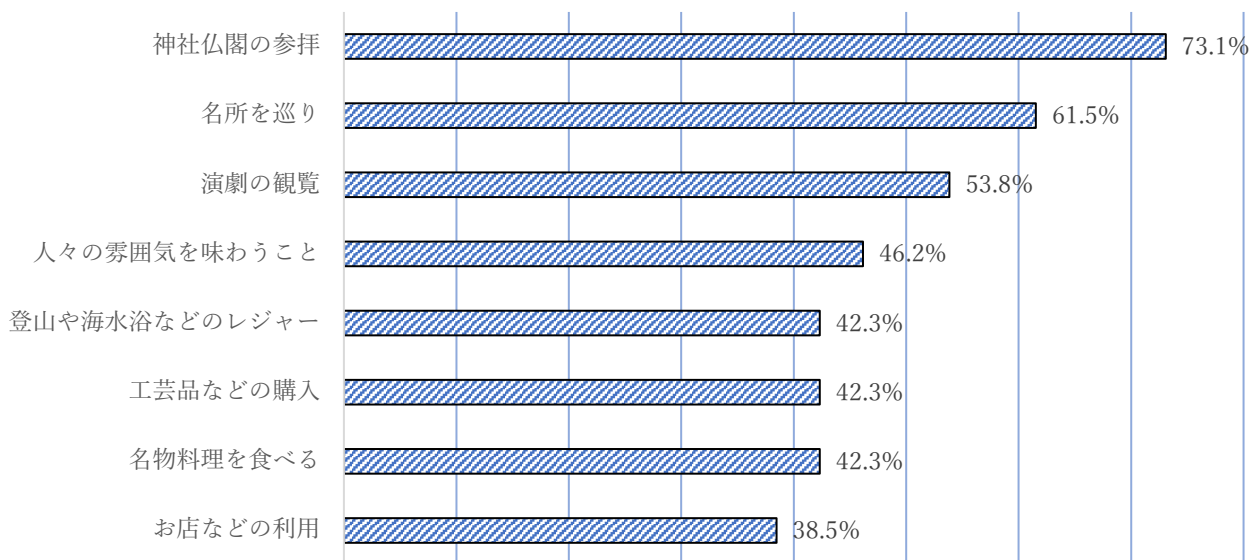
【児童の実態】第6学年 在籍児童…26人

歴史学習で大切だと思うこと（複数回答可）





江戸時代の旅の目的（複数回答可）



《考察》

本学級の児童は、歴史学習に対して出来事や人名などを覚えることが大切だと考えている。友達と交流する中で新しい意見や考え方に会い、理解を深めている様子もある。また、約半数の児童は、時代の前後を比較したり、関連させたりして歴史的事象を理解しようとしている。さらに、当時の人々の思いや考え方を探り、立場による見方や考え方を大切にしている様子が伺える。これらのことから、本単元では資料をもとに時代の特徴や変化を捉え、友達と話し合う中で多面的な学びを図っていく。

また、江戸時代の旅に出る身分について問うと、民衆（町人や庶民、農民といった答えを含む）と答えた児童は6名だった。江戸時代の旅が安全であったかの設問に対しては、いいえと答えた児童が22名いる。先ほどの設問と合わせて考えると、道中の安全が確保されていないことを想像し、民衆には旅の敷居が高いと思っている様子がわかる。旅をする身分については、身分が高く、経済的に余裕がある者や商人などの限られた身分の者が行くと想像している。一方で、旅の目的について尋ねると、神社仏閣の参拝や名所の訪問

などに答えが集中している。現代の旅に重ねて、設問に答えていると考えられる。お店の利用やレジャー等に関しては一般的ではなかったと考える児童が半数おり、実際の江戸時代後期の豊かな旅の様子とは異なっていることがわかる。

これらのことから、児童は江戸時代の旅に対して限定的な身分の者が行う道楽的な意味合いで捉えていることが分かった。しかし、実際の江戸時代後期の民衆はお伊勢参りに代表されるように活発な移動が存在し、その中心は町人や農村部の農民まで幅広かった。その旅による刺激が民衆の文化を大きく発展させ、江戸時代末期の動乱の一翼を担っていた。これらの大きな時代の動きを民衆の目線から考えられるように学習を進めていきたい。

国立歴史民俗博物館の大きな特徴のひとつはこうした民衆に着目した展示があることである。そこで、当時の民衆の思いをくみ取れる資料を用意し、どのように考え、旅をしていたのか明らかにしていきたい。そのため、当時の資料をできるだけ用意し、そこに至るまでの苦労や喜びなどを感じられるようにする。社会的な見方・考え方を養うためにも、こうした資料やこれまでの学習と関連付け、深い学びを実現していきたい。

3 指導計画（8時間扱い）

過程	時間	○主な学習活動と内容
つかむ	1	○両国橋の様子と打ちこわしの様子を比較し、小単元の学習問題を作る。 単元を貫く学習問題 なぜ平和だった江戸時代に争いが増えていったのだろうか。 ○学習問題について予想し、学習計画を立てる。
調べる	1	○資料から当時の旅の様子について調べ、当時の人々がどのようなものに興味をもっていたか話し合う。 ・資料から旅に赴く人の気持ちや意味について調べる。 ・旅の目的地を調べ、どのような目的があるのか考える。
	1	○都市ではどのような娯楽があり、その広がりや影響はどのようなものだったか調べる。 ・歌舞伎の演目から、どのような人々に受け入れられていたか考える。 ・浮世絵の種類から、人々の求めているものを考える。 ・歌舞伎と浮世絵の広まり方を旅と関連付ける。
	3	○国立歴史民俗博物館の第3展示室を見学する。
	1	○学問が普及したことで、どのような影響が起こったのか調べる。 ・国学や蘭学の考え方と幕府の方針を比較する。
まとめる	1	○旅が果たした歴史的な役割について話し合う。 ・文字や文化を伝える役割を果たしていたことを図に表す。

		まとめ 三都を中心に町人文化が発展し、学問や文化が栄えたが、幕府に疑問をもつ人が現れたことで政治が不安定になり、争いが増えた。
--	--	---

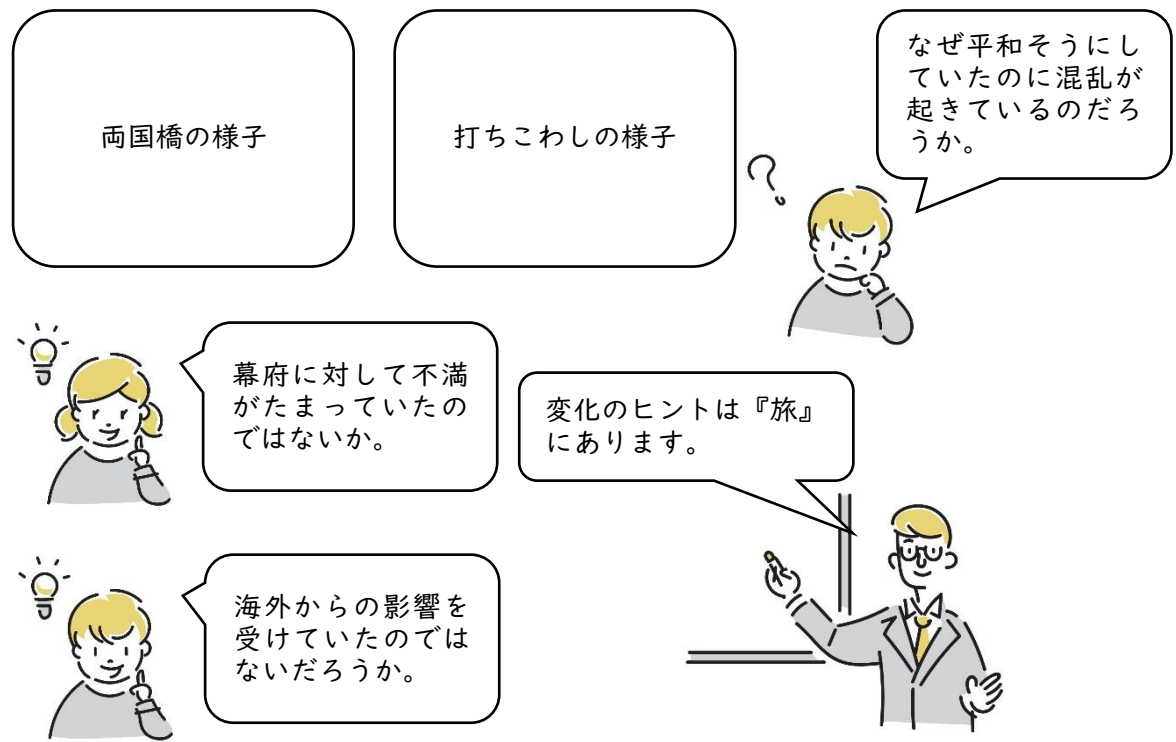
4 実践の概要

(1) つかむ 江戸後期の両国橋の様子と打ちこわしの様子を比較し、学習問題を立てる

児童は前単元までの学習で、江戸時代は強権的な時代と捉えている傾向にある。そこで、民衆の様子や時代の急激な変化を捉えられるように両国橋の様子と打ちこわしの様子を比較した。

児童からは、「なぜ平和そうにしていたのに混乱が起きているのだろうか。」という疑問が出てきた。その予想について、児童は話し合いを行い、「身分ごとに幕府に対して不満がたまっていたのではないか。」といった予想や「海外からの影響を受けていたのではないだろうか。」といった予想が出てきた。

次に、学習計画を立てるために、この混乱の一因に「旅」が関係していることを教師から提示した。また、事前にとっていた児童のアンケートを示し、「江戸時代は強権的であり、人々に自由はなかったのではないだろうか。」というこれまでの児童の考えがあったことを確認した。児童からは、「なぜ旅と混乱が結びつくのだろうか。」という疑問や「そもそも江戸時代の旅とはどのようなものだったのか知りたい。」という感想があり、これらの感想をもとに学習計画を立てた。



(2) 旅について調べる

学習計画に沿って、江戸時代の旅はどのような目的があったのか、五街道と宿場町が記された地図¹から読み取りを行った。

温泉地で有名な地域を見つけたり、神社仏閣が今でも有名な地域を見つけたりし、当時の旅の目的へ迫ることができた。また、街道が三都へ集約している様子から、都市の観光も人気があったことを読み取った。

以上の読み取りから当時の人々がどのような場所へ、どのような目的で旅をしていたのか話し合い、考えることができていた。一方で、児童からは、「旅に出る人はどのような気持ちだったのだろうか。」「なぜメディアが発達していない時代に様々な旅行先を知ることができたのだろうか。」「どのくらいの期間で旅をしていたのか。また、その費用についてはどのように捻出していたのだろうか。」という疑問が出てきた。

そこで、『旅行用心集』²の読み取りを行い、当時の旅がどのようなものであったのか、また、実際の旅で気を付けていたことや目的について確認した。『旅行用心集』の読み取りを通し、児童は江戸時代の人々が生き生きと旅に出ていた様子や、旅がこれまでの認識と異なり自由であったことに驚きを感じていた。

単元の学習計画	
1	旅の目的地や様子、旅への思いについて調べよう。
2	旅行先ではどのような目的や娯楽があったのか調べよう。
3	歴博で江戸時代の旅による影響を調べよう。
4	歴博で学習してきたことを整理しよう。
5	単元のまとめ

(3) 文化の種類や広がり調べる

旅に対する思いや様子について学習したため、実際に旅行先ではどのような楽しみがあったのか、また、当時の人にはどのようなものが人気だったのか調べることにした。そこで、資料として『わくわく！探検 れきはく日本の歴史』（第3巻）を用意し、グループごとに歌舞伎や浮世絵、人形浄瑠璃を調べたり、江戸時代の食文化に注目をしたりする児童もいた。資料を用意することで疑問が解決できる楽しさに加え、解決したことの周辺に対して興味をもち、さらに調べたいという思いをもつことができた。

調べたことを共有していく中で、調べたことを旅と関連付けてまとめるようにした。児童はこうした歌舞伎や浮世絵、人形浄瑠璃などの娯楽が地方の人々の興味・関心を引き付け、さらなる旅への誘いとなったとまとめた。

児童は文化が波及していく様子を感じ取り、浮世絵などには芸術的側面だけでなく、メディアとしての役割もあったことに気が付くことができた。そして、紙媒体が人の移動に

¹ 深光富士夫「旅からわかる江戸時代2 あこがれの名所めぐり！庶民の旅」河出書房新社 2019 年より

² 八隅蘆庵『旅行用心集』文化 7（1810）年八隅蘆庵が著した旅の心得。旅の携行品、温泉でのふるまい、船酔いへの対処など、旅の道中で注意すべき事柄を記す。

伴って波及していくことで、地方や都市の様子を知ることができたとした。さらに、印刷技術の向上により広く本が普及していることに目を向け、宗教や学問に興味をもち、「江戸時代にはどのような学問があったのか調べたい。」という児童もいた。さらに食文化に興味をもっていた児童は、「地方ごとに有名な食べ物があったのか調べてみたい。」という児童がいた。

『わくわく！探検 れきはく日本の歴史』はこれまでの学習でも利用し、調べる学習では児童の興味・関心に沿って資料を選別・提示してきた。ここまでの学習を終え、これまでの学習で出た疑問は歴博へ行けば解決するという児童の見通しを醸成することができた。

（４）歴博の見学

これまでの学習をもとに、児童の疑問に沿って見学コースや見せる資料を教師が選定した。児童の疑問を大きく分けると、「江戸での人々の暮らしぶり」「地方の特産品とその物流について」「旅の仕組みについて」「学問の種類や広がり方」の４つとなった。

そこで、180分の見学時間を２つに分け、前半60分を教師が主体となり、児童の疑問をもとにした見学コースを作った。後半は班別の自由見学とした。

《江戸での人々の暮らしぶり》

まず、「江戸での人々の暮らしぶり」を学習するために江戸のジオラマの見学を行った。ここでは児童にどのような人がいるのか。また、どのような建物があるのかを観点にして調べた。児童は井戸水があることや長屋と商家の違いなど、細部まで見学することができた。また、日本橋周辺にはたくさんの屋台が並んでおり、寿司や蕎麦など食文化にも目を向けることができた。

児童から、「多くの人々が暮らしていて活気が伝わる。」といった感想や「服装が違うことから身分の違いも分かりやすかった。」といった感想があった。

《地方の特産品とその物流について》

次に、地方の特産品と物流について見学を行った。北廻船の見学ではたくさんの特産品が海洋交通を利用し、運ばれていることに児童は驚いていた。同時に、この海洋交通の行き先に注目し、大阪が物流の拠点となっていることに気が付くことができた。これまでに学習した五街道と宿場町の地図と関連付け、陸路と海路が交わっていることを関連付けることができた。

こうした地図や実際の展示を目の当たりにすることで多くの児童は江戸時代の人ともの交流が想像していたよりもはるかに多く、活発であったことを学習した。また、これま



図 1 江戸橋広小路模型（国立歴史民俗博物館 HP より）



図 2 北前船と川舟（国立歴史民俗博物館 HP より）

でに学習した江戸時代のいわゆる4つの口の学習から松前とアイヌの交流もこうした物流に組み込まれていたことを再認識した児童や俵物が海外に向けて取引されていたことに驚き、意外に感じていた。

《旅の仕組みについて》

そして、旅の仕組みについての展示を見学した。これまでの学習で大きな疑問となったのはその交通方法と費用であった。そこで、旅籠の『角屋』の模型を見学した。ここでは、入り口にある看板と軒下に掲げられた看板に共通の言葉があることを観察させた。すると、児童は「講」の存在に気付くことができた。キャプションを利用しながら講の仕組みや当時の旅の仕組みを教師が解説した。また、児童は角屋の復元模型に入り、階段の急さや漆器に興味深さそうに見学した。



図3 伊勢参詣でにぎわった標本宿の旅籠（はたご）「角屋」の復元模型。（国立歴史博物館 HP より）

児童は、模型について見学し、講の地名などから多くの人々が行き来していたことに驚いていた。また、講の仕組みを知ることによって「地域の願いを受けて行く責任の重さもあったのではないか。」といった、当時の人々の思いに気付く児童もいた。ここで、児童から、「これだけ江戸時代の後半にかけて安定した世の中になっていたのになぜ混乱したのだろう。」と単元の学習問題を想起し、改めて疑問を深める様子や「江戸時代に行って、実際に暮らしてみたい。」という感想をもつ児童もいた。

《学問の種類や広がり方》

最後に江戸時代の学問についての見学を行った。ここでは、本草学や和算、治水、医学、そして国学について扱った。児童はここまでの展示を受けて、印刷技術が発達してきたことは理解していたので、書籍の流通が可能になったことも予想していた。また、展示室の移動の際に、寺子屋に触れることで識字率が増加していることも理解していた。そして、人々の生活に役立つ学問が本として出版され、知識を得ていたことや学者達が遊説を行うことで門人を獲得していったことを展示から学んだ。特に、児童は平田国学の広がりについて、千葉県で広がりを見せていたことに驚いていた。

これまでの展示をもとに、人が移動するとモノが移動することを児童は理解していたが、モノの中にはこうした学問などの情報も含まれていることに気付くことができた。また、その情報は紙として残り、広まることでさらなる流行へつながることを「怖い」と表現する児童もいた。

前半の見学を終えると児童は「もう一度第3展示室を見たい。」と言って、浮世絵や旅の道具などを丁寧に見学する様子が見受けられた。また、「博物館の見方がわかると楽しい。」や「知らないことを関連できると楽しい。」といった感想があった。博物館に対して児童は「知りたいことがあって来る場所」ではなく、「見ていて楽しい」に過ぎないものであったが、こうした疑問をもち見学することでより学習効果は高いものになるのではないだろうか。

5 成果と課題

成果として、歴博を用いた学習を行うと、児童の興味関心や疑問に感じた資料をその場で用意できることである。年表や図などが豊富にあるため、資料の選定や解説は必要であるが、児童の疑問に思ったことをその場で資料をもとに解説できることは大きな利点と言える。多くの児童は、前半の見学後も第3展示室に残り、もう一度資料を見ていた。わからないものがあると教師の解説を求め、これまでの学習と結びつける発言が多かった。情報の多さは一見すると児童にとって学習の難しさにつながるものであるが、時代の外観を捉えることにより、自立した学習者へと変わり、社会的な見方や考え方を働かせ、自分の興味の外側の情報についても関連させたり、比較したりすることで新たな発見へとつながることができる。

また、授業後のアンケートではほぼ全ての児童が「博物館で調べる学習の楽しさがわかった」や「また歴博に行きたい」といった社会科の学習への意欲の向上が見られた。展示の資料が多く、児童にとって高度な内容とされてしまうが、知ることの楽しさを味わうにはこの資料の豊富さが魅力だと言えるだろう。

課題としては、資料の選定や解説には多くの時間を要することにある。今回の校外学習では1時間を第3展示室に費やした。また、児童の疑問に即した資料を選定するには、担任が事前に調査が必要であるし、授業との関連も必要になってくる。遠方などの先生方が利用しやすくなるためには資料のデジタル化がより進む必要があるだろう。

また、見学に際して資料の解説が必要な点である。歴博館内には丁寧なキャプションや図、表などの補足資料も豊富であるが、児童の興味関心に即した資料を自身で見つけることは難しい。今回の実践では、児童数が少なく小規模であったため集団で移動することができた。しかし、小グループで行動し、班別行動とした場合は資料の解説や選定が難しくなる。そのため、事前に見学ルートを提示し、資料のリストアップを学習の中で行えると良いだろう。